

E3などエタノール直接混合ガソリンと大気汚染について



1. 主な大気汚染物質とこれまでの石油業界の取組み

大気汚染物質	これまでの石油業界の取組み
SOx(硫黄酸化物) 基準を達成	軽油、重油など燃料の硫黄分低減
SPM(浮遊粒子状物質) 基準を達成	軽油のサルファーフリー(排ガス処理装置の高性能化)
NOx(窒素酸化物) ほぼ基準を達成	ガソリン・軽油のサルファーフリー(排ガス処理装置の高性能化)
HC(炭化水素) 引下げが必要	夏場のガソリン蒸気圧の低減(上限値78kPa → 72kPa → 65kPa)

基準未達成 → **光化学オキシダント**

①目やのどなどを強く刺激、頭痛などを引き起こす
 ②植物・農作物への被害

NOxやHCなどの1次汚染物質が紫外線を受けて発生する

2. エタノール直接混合(E3など)と光化学スモッグの発生の関係

ガソリンにエタノールを直接混合すると、ガソリンの揮発性が上昇



HC(炭化水素)の発生量が増加し、光化学スモッグの発生を招く

65kPa → 72kPa

(註) 65kPaを58kPaに引き下げるためには設備投資が必要

